

おお大勝利

平成 27 年度山東サッカー一部報第 3 号 (4 月 21 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

Y1第2節 東海大山形に勝利 FK突き刺す！

4 月 18 日 (土) 県リーグ第 2 節東海大山形戦が県総合運動公園第 2 運動広場 (天童第 2) にて行われました。山東は前節、日大山形にチンチンにされ、Y 1 の洗練を浴びました。そう簡単に勝たせてくれるとは思っていませんでしたが、やはりな・・・というのが率直な感想でした。おそらく選手も同じ感想だったのではないかと思います。**良いことなのか悪いことなのかわかりませんが、ある程度心の準備がなされていたからか、大敗翌日の練習はとても活気があるものでした。ん～、今年の 3 年生、なかなかしぶとい！** 今節の相手は東海大山形。こちら前節同様、山形で知らぬ人はいない強豪校。昨年度の選手権に初出場し、これで名実ともに山形のトップチームの仲間入りをした¹。所属選手数でも他を圧倒しており、選手 (およびその家族) から支持されていることが分かる。私は身近に見ておりますが、**心技体の総合的な成長を促す指導が素晴らしい。**「ただ勝ちゃいいんだ」「勝てばすべてが許される」という「勝てば官軍」的発想から程遠い所にチームコンセプトを置いている。そりゃ、保護者も安心して子供を任せますよ。

さて、山東。その強敵相手にどうチームを立て直すか。前節から一週間、一応顧問としては、練習にてサイドからの攻防のトレーニングを積ませ、また、チームコンセプトというか山東流ゲームの運び方について話をし、共通認識を得ようと努めました。どうなるか。場所は天童第二 (人工芝)。隣にモンテのホームである ND ソフトウェアスタジアム山形があり、その日は 14:00 から J 1 松本山雅戦がある。こちらは、それより少し早い 13:00 キックオフ。いつも通り清野 OB 会名誉会長 (総監督)、後藤報道局長がお見えになる。**いつも通り、が本当にありがたい**²。そして、いつも通り、多くの保護者がいらっしやっている³。**風が強く、風を味方につけるかどうかは試合の分け目**であることを予想させる。

キックオフ前、山東の布陣は風下。キックオフは東海。ということは、**コイントスで勝った山東があえて前半の風下を選んだ**ということ⁴。「はは～ん、ゲームキャプテンのタツル、前半耐えて後半勝負の作戦に出たな」とベンチでニヤツとする。試合が始まると、風上という環境的にも実力的にも上回る東海が攻勢にでる。山東はいつもながら稚拙ではありますが、**試合の入りは特に稚拙に見える**。セットプレーからのゴチャゴチャのなかで、クリアをまごつき、訳のわからない形からあわや失点という場面を作られる。クリアしきれない⇒GKが出て取ろうとする⇒味方DFに阻まれGKがボールに近づけない⇒その間にボールがGKのいないゴール

¹ これまでも、実 (=実力) はあったのですが、名 (=タイトル) が遠かった。山形高校サッカーの七不思議の一つ?でしたが、不思議が一つ減りました。

² 「ありがたい」とは漢字で「有難い」と書く。めったにないことをしていただいた/いただいている、ということに接した時に湧き上がる感情を、「有難い」と呼ぶのでしょうか。

³ 保護者OB・OGの姿も目立ちました。これも有難いことです。

⁴ コイントスに勝ったチームに、前半どちらに布陣するか (エンド) を決める権利が与えられます

付近に流れ相手にボールがわたる、というなぜ失点しなかったかわからないシーンを作られる。やられ方が悪すぎる。また、一度、山東DFラインの足が止まったところにサイドチェンジとなるクロスボールをDFライン裏に入れられ、あわやGKと1対1というシーンも作られる。これには山東DFも遅れながらも何とか戻り、事なきを得ましたが、非常に危なかった。前半通じて、東海は風に乗ったロングスローでスペースを狙ってくる。ん〜何ともうるさい攻撃。しかし、耐え忍んでいると良いことがあるもので、左サイドのサンペーに出たボールを、サンペー内側にカットインしながら東海DFライン中央裏にボールを出すと、強風でボールが空中で止まる。そのボールをボランチのシュンが走って自分のものとし、裏へのボールをカットしようとして前がかった相手GKの頭越しに、ループシュートを打つチャンス到来。正直、正確な技術を持つシュンだけにベンチで期待してしまいました。が、左足で放たれたシュートは枠をとらえることができず。まあ、この展開で先制するなど虫が良すぎる。とりあえず、風下のチームもシュートは打ったということで満足し、前半終了。

後半は、打って変って山東ペース。強風が吹いてますからね。ただ、風下のチームが足元でボールを回す展開でしっかり試合を作ることだってあるし、山東の前半のように、裏へのボールは（強風で流されてボールがGKに渡りやすい風上のチームよりも）風下のチームの方が有利ということだってある。そうした可能性がありながら、**基本東海陣地で試合をし続けている山東イレブン、よく頑張っている**。しかし、何となく押し込みながら、**選手間の距離が近すぎる**というか**ゴチャゴチャするだけ**で、決定的シーンが作れない。しっかり幅を取るポジショニングを基にしてアウトサイドから精度の高いクロスを入れるとか、中央の狭い所を攻めるにしてもマークを外す動きとその動きに対する丁寧なパスで相手をはがすとか出来れば良いが、山東の攻撃、手詰まり感がある⁵。こういう何となく押ししている展開は、サッカーでは逆に失点の危険性が高い。そう感じながら不安に思っていると、**山東から見てペナルティエリアの手前右外、ゴール中央から直線距離で30mくらいのところ⁶でFK**を得る。**蹴るのはカツミ**。前節は（日大の選手のパワフルさを恐れてか）魂を感じさせないプレーに終始し、顧問からのお目玉を最も食らった選手。今節はしっかり戦っているし、キックは一番うまい。可能性はあるだろうが、ちょっと距離があるのと、ボールがゴールへ向かう軌道の横から風が吹く形になるので「風に乗る」という訳にもいかないのとで、あまり期待して観てませんでした。が、**蹴られたボールは東海ファースイドのゴール左隅にスバッと突き刺さるパワフルゴールとなる！！ 気持ち良すぎる！！** その後は、やはり受けてしまうのか、東海が目覚めたのか、風上の山東陣地に押し込まれる冷や冷やした展開が続くが、何とか守り切り、1対0で勝利。

強風に助けられた勝利と言っているでしょう。中盤の技量では東海の方が上でしたから、風がなく丁寧な試合が可能であればもっと耐える時間が続いたでしょう。**山東から見れば（山東CBは計算通り頼り甲斐ある働きでしたが）SBが手堅く仕事をしてくれたことが大きかった**。そして、**タツル副キャプテンの前半耐える作戦が当たった**ということ。試合翌日、タツルくんはお腹の調子がすぐれず練習を休んだ・・・ので、「タツルの作戦当たったね」と3年生に言くと、**皆「いや、あれ絶対何も考えず、「このまま」って（審判に）言っただけですよ**」。確かに、「このまま」だと、前半は風下になる。ズッコケましたが、まあ、結果オーライよ〜。

とにかく大きな一勝でした。次節も応援よろしくをお願いします。

4月25日（土）Y1第3節 羽黒戦 @市球技場（旧市陸） 13:00~

⁵ パスを右から左に味方に流しているだけで、ゴール迫るドリブル・ワンツー・スルーパスが見られない怖さのない攻撃でした。

⁶ ゴールラインのいちばん近い所との距離で言うと23mというところか。